

【令和7年 11 月から令和8年3月に係る事業報告】

I. 総合文化芸術センター

1. 企画展		高校生
①北河内ブロック高等学校美術・工芸展		
目 的	枚方市が北河内の核となって地域の文化芸術を支える環境づくりに寄与し、本市地域の文化芸術の発展とともに、他の地域からも若い活力を呼び込むことによって、まちづくりへの貢献する サンプル	
内 容		
対 象	北河内地区の高校	
会 期／会場	令和8年2月 11 日(水)～2月 16 日(月)／ひらしん美術ギャラリー展示室2・3	
参加校	15 校(昨年 14 校) (具体的に)枚方高校、枚方津田高校、枚方支援学校、北河内皐が丘高校枚方、枚方なぎさ高校、緑風冠高校、牧野高校、寝屋川高校、四条畷高校、守口東高校、芦間高校、門真なみはや高校、門真西高校、交野高校、野崎高校	
展示点数	207 点	
入場者数	847 名(参考:昨年 873 名)	
主 催	北河内ブロック高等学校美術・工芸教育研究会 枚方市総合文化芸術センター指定管理者 アートシティひらかた共同事業体	
共 催	大阪府高等学校美術・工芸教育研究会	
協 力	枚方市	
後 援	大阪府高等学校芸術文化連盟	
写真	     	

Ⅱ. 御殿山生涯学習美術センター(1)

1. 企画展		一般
①アトリエ美術館 Vol.29「副産物産店の御殿山大阪美術学校～終末の教室～展		
目 的	「アトリエ美術館」は、参加者が作家とともに「つくること」を通してその造形思想に触れ、相互交流する場を創出する企画展。アーティストの支援・発掘・育成の他、市民の芸術活動の活性化を目的としてきた。 今回はアートユニット 副産物産店を招聘し、新たな学びと表現のかたちを探る。「ものが終わる」とはどういうことか、そこから何を始めることができるのか、訪れる人と共に見つめ直す機会とする。	
内 容 【展覧会】	サンプル 展覧会、関連イベント(地域交流イベント、アート・ワークショップ等)のプログラム、アーティストトーク、「美術の教科書」をコンセプトにした記録集を令和8年3月末に発行予定。 1Fギャラリースペースにセンター利用者の創作活動で出た廃材や不要品の持ち込み・持ち帰りの“循環”を可能にするインスタレーション作品「御殿山芸術資源循環センター」を設置。次年度以降も継続的に地域独自の循環型社会実現のプロジェクトとして根付かせていく。 展示ガラスケースには、関連イベントのワークショップで制作した参加者の作品を展示。	
作 家	副産物産店(ふくさんぶっさんてん) 矢津吉隆と山田毅によるアートユニット。アーティストのアトリエから出る魅力的な廃材を“副産物”と呼び、回収、販売する資材循環プロジェクト。ものの価値や可能性について改めて考える機会をつくる試み。主な展覧会に「アブソリュート・チェアーズ 現代美術のなかの椅子なるもの」埼玉県立近代美術館・愛知県美術館(2024)など。	
略 歴	矢津 吉隆(やづ よしたか) 美術家、kumagusuku 代表。1980 年 大阪生まれ。京都市立芸術大学美術科彫刻専攻卒業。京都芸術大学美術工芸学科専任講師。ウルトラファクトリープロジェクトアーティスト。京都市立芸術大学芸術資源研究センター客員研究員。京都アートラウンジディレクター。 山田 毅(やまだ つよし) 美術家、只本屋 代表。1981 年 東京生まれ。2025 年 京都市立芸術大学大学院博士後期課程修了。京都市立芸術大学、京都芸術大学、京都精華大学非常勤講師。ウルトラファクトリープロジェクトアーティスト。京都市立芸術大学芸術資源研究センター客員研究員。	
対 象	一般市民	
会期/会場	令和8年1月4日(日)～2月 23 日(月・祝)／御殿山生涯学習美術センター1 階ギャラリー	
入場者数	算出中	
御殿山芸術資源循環センター(ギャラリースペース)		架空の美術学校(産業廃棄物倉庫)
 		